

福岡市は老朽化したこども病院の建て替えのために、東区の人工島への移転を計画しています。市役所内部の「アイランドシティ事業検証・検討チーム」でその計画が進められ、2007年12月に約90ページの報告書を出しました。その報告書によれば、現在の中央区にあるこども病院を東区のアイランドシティに移転することが最適であると述べています。

ところが、人工島への移転は、子どもたちやその家族のことを考えず、将来の福岡市の小児医療を後退させる、次のようなたくさんの問題をはらんでいます。

1. 福岡市西部に大きな小児病院がなくなる！？

現在のこども病院は、中央区唐人町にあります。アイランドシティは東区香椎浜です。東部にはすでに小児医療センターを開設した九州大学病院があります。こども病院を人工島に移転させた場合、西部の小児医療の空洞化が起きる危険があります。つまり、小児医療の大きな病院が東部に偏ることになり、西部の小児医療の体制がとても手薄になります。現在の福岡市の良好な小児医療の環境を大きく変化させ、東西のバランスを壊すことになります。

2. 人工島へ行くには橋しかない！！

こども病院は重症の患者が多く、容体の急変が起こりやすいものです。1分1秒を争う子どもたちに、橋梁のみの交通手段では急変時、緊急時の対応ができません。多方面からのアクセスが常に求められています。福岡市の中央部のほうがはるかに優れています。

3. 空港や博多駅からどうやっていけばいいの？

人工島への公共交通機関は、とても不十分です。公共交通機関が充実していないところへの移転は医療の充実と逆行します。市内はもとより、全国から来る患者に対して、福岡空港や博多駅からのアクセスの不便さは、きわめて大きな問題です。

4. 阪神大震災では橋が壊れて孤立したよ！！

病院という建物は、もっとも命の安全を保つ場所でなければなりません。埋立地は未だ地盤の安全が保障されているとはいえません。そのような場所に建設しようとすることは、命の軽視につながりかねません。

こども病院に通院している患者の多くは定期的な受診が必要であり、交通アクセスの良い現在地から利便性が悪い人工島への通院を余儀なくされることは、患者・家族の多大な負担の増加につながります。また、患者家族は病状の急変時など緊急時や災害時の人工島への搬送にも強い不安を抱いています。このことは今後、新たにこども病院を受診する患者・家族にとっても同様に大きな問題です。私たちは全国でも有数の小児医療環境を誇る福岡都市圏を守るために、現在地での建て替えか、近隣地への移転を強く望みます。

福岡市立こども病院の人工島移転反対に対する皆様のご理解とご協力を切にお願いいたします

「こども病院の人工島移転を考える会」

代表 佐野 寿子(「ハッピーハート」代表 090-3070-3024 <http://www.happy-heart-fukuoka.org>)

西頭 京子(「あそびの会」代表 090-8833-5575)

連絡先(署名送付先) 〒819-0013 福岡市西区愛宕浜 2-3-1-108 西頭京子